

7. 医療現場での生成AI活用に向けて、 取り組みと今後の期待

藤岡裕一郎*1 / 野田 悠介*2 / 柴田 敦史*2 / 流郷 雅仁*1

*1 富士通Japan (株) *2 富士通 (株)

生成AIと、医療現場への 活用の期待

OpenAI社が発表した「ChatGPT」は、自然な文章を生成できるだけでなく、高度な自然言語処理を行えることから注目されている。さまざまな業界でChatGPTをはじめとする生成AIの活用が模索されており、医療業界、とりわけ海外においては、2023年5月に米国電子カルテシステムトップシェアのEpic社が電子カルテに生成AIを活用することを発表、2023年6月にGoogle Cloud社がメイヨークリニックと提携して医療業界の変革に向けて生成AIを活用することを発表している。

国内の医療業界においても活用が期待されており、「医療DX 令和ビジョン2030」で、政府は効果的かつ効率的で質の高い医療提供の実現を提言している¹⁾。また、医師の働き方改革として、2024年4月より医師の時間外労働の上限規制と健康確保措置の適用が始まっている。このため、医師の業務を看護師や

薬剤師をはじめとする他職種への業務移管（タスク・シフティング）や業務共同化（タスク・シェアリング）、ICTなどを活用した医師・医療従事者の業務効率化や勤務環境の改善が推進されている。

医療DXを通じた医療従事者の働き方改革は待たなしであり、文章生成・要約をはじめとした業務に生成AIが活用できるのではないだろうかと注目した。本稿では、医療現場の状況について言及、AIを活用した医療従事者向けの業務支援のPoC、医療現場への活用に向けた今後の期待について、バンダーの立場から考察する。

医療現場の状況

働き方改革に対して生成AIの医療現場適用を検討するに当たり、医師と、医療従事者の中で最も人数が多い看護師にフォーカスした。医師と看護師の業務の実態について整理する。病院勤務医の労働実態調査によると、図1のように時間外労働が発生する理由（複数回答）では、「診断書やカルテなどの書類作成」

が57.1%で最も多い²⁾。

また、医師の間接業務について調査した研究によると、1日に3時間12分の時間を診療録や医療文書作成などの時間に費やしている³⁾。特に、退院時サマリの作成や紹介状の作成、紹介状の返書の作成などの医療文書の作成が負担となっていることがわかる（図2）。

医療文書の作成については、2010年に「医師事務作業補助体制加算」が大幅に増額されたことから、従来からクラークを活用し、医師の負担軽減が試みられている⁴⁾。実際に、ある医療機関にヒアリングを行った結果、退院時サマリなどの医療文書の作成が医師の負担になっていると回答を得た。クラークの活用が以前から推進されているものの、今現在も医療文書の作成は医師の負担となっており、これらの業務効率化のニーズがあると考えられる。

2019年度に開始した国の働き方改革関連法に基づき、看護師においても働き方改革が推進されている。看護師の時間外労働の上限は、一般企業と同様に原則として月45時間、年360時間と制

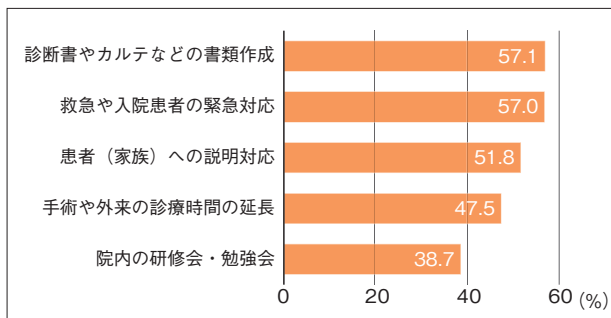


図1 医師の時間外労働が発生する理由²⁾

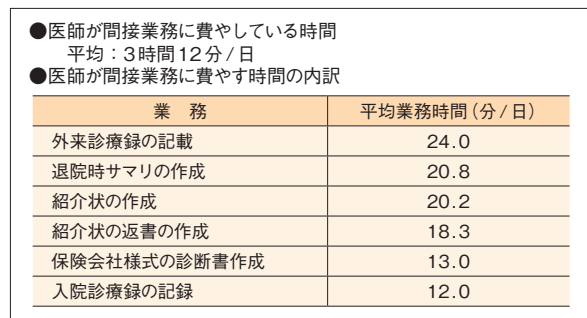


図2 医師が間接業務に費やす時間³⁾